



# 名古屋大須ロータリークラブ

WEEKLY REPORT

NO 943

＜本年度クラブ会長方針＞

**LEAD THE WAY - 率先しよう**



承認 1985年2月12日 例会日 木曜日12:30 例会場 名古屋東急ホテル  
 会長 神田 憲 URL <http://www.nagoya-osu.org> Email [office@nagoya-osu.org](mailto:office@nagoya-osu.org)  
 幹事 内藤 明 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337  
 事務局 460-0008 名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル 6F

2006～2007年度  
 R. I. 会長  
 ウィリアム B. ボイド

## 世界理解月間

第102回例会

於：名古屋東急ホテル  
平成19年2月15日(木)

出席計算数 64名中 52名出席  
 出席率 81・25%  
 前々回出席率 100・00%

### ロータリーソング

「ROTARY」

指揮者 佐々木 功  
 ピアノ伴奏 富板 玲子

### ニコボックス

本日は会長に代わってスピーチをさせて頂きました。

加藤 正樹  
 ニューヨークはマイナス10℃、  
 オランダはプラス25℃の世界  
 でした。アメリカは広い。

吉田 隆彦  
 結婚記念日と妻の誕生日です。

川畑 博敬  
 バイオリンの話、よろしくお願  
 します。  
 高木 政義



### 副会長挨拶

副会長 加藤 正樹

1、日本の神々

ア) 世界がまだ宇宙に漂っているころ日本の初めての神といわれる神、すなわち天の御中主の神、高御産巢日神、神産巢日神がお生まれになり、続いてウマシアシカビヒコジの神、天の常立国の神で以上の5柱の神を「トアマツ神」という。

イ) 次にクニフトコタチノ神、トヨクニノ神の2柱がお生まれになった。

ウ) 次に10柱の神がお生まれになった。この神様は夫婦である。最後にお生まれになったのがイザナギとイザナミである。

エ) 以上のイとウをあわせて神代七代(カミヨナナヒ)と呼ばれる。

エ) イザナギ、イザナミは創生の神々に、この漂って不完全な国をちゃんと作って欲しいと頼まれました。そこで一人は天上と地上をつなぐ橋(浮橋)に立って地上に矛を突き刺し、それを引き上げるとその霧が地上に落ちて「ロロロ」と音を立てながらオノロロ島が出来ました。

オ) その島に下りてそこに大きな

柱を立て立派な御殿を作った。

二人はお互いの体を見合せて不思議なことに気がついた。

イザナギには余分な部分があり、イザナミには無かった

のである。そこで二人は相談し足りない部分に余った部分をいれることにした。

最初に大きな柱を挟んで、それぞれが反対方向に回って

あったとき最初にイザナミが「なんていい男だ」と

言っていたのはじめました。しばらくしてから子供が生ま

れましたが出来の悪い子なので流してしまいました。



イザナミ・イザナギの2神

イ) 二人は相談して創生の神に相談に行きました。占った結果は先に女がしゃべったのが

いけないと言ったことになり、再度オノロロ島に帰り、再度

柱を回ってイザナギが今度は「いい女だ」と言っていて交合

しました。その結果今度はいい

子ばかりで淡路島、四国、九州、香岐、対馬、佐渡として大

八島の国立である。また、山の神、海の神、風の神など多くの神を生み最後にカノカゴツチの神(火の神)をお生みになったとき女陰を焼かれてなくなりました。イザナギは怒って火の神を切って殺してしまわれましたが、その死体からまた多くの五穀の神がお生まれになりました。

次回はよいよアマテラスの登場です。お楽しみに

### 卓話 『20年の音』

鈴木バイオリン製造(株) 取締役社長 鈴木 隆

江戸末期に生まれた鈴木政吉は、幼い頃より家業であった三味線作りを手伝っておりましたが、時代は文明開化の波と共に確実に洋楽に目を向け始めておりました。



講演中の鈴木さん

そんな時に友人の持っていたバイオリンとの出会いが、本格的にバイオリン製作に取り組みきつかけとなります。明治20年、政吉28歳の時でありました。

当時、西洋の輸入バイオリンは価格が高く、一般にはなかなか手が出ない時代の中で、手頃な価格のバイオリンの登場を待ち望む市場の期待に応える為、政吉は企業家として分業制による生産方式の確立、専用機の開発によって、それまでの常識とされていた手芸一辺倒からの脱皮により、大量生産を可能として対応します。



日本で初めて作られたバイオリン(奥)  
近代、製作されたバイオリン(手前)

その一方で、パリ万博等海外の博覧会にも自身の作品を積極的に出品、受賞を重ねる事で製作家としての自信も深めていく事となります。

鈴木バイオリンの基礎は既にこの時期、全て政吉自身により確立されたものであり、その歴史は、日

本のバイオリンを初めて世に送り出した政吉の誇りと技術者魂を、懸命に守り続けた歴史を伝えるのです。



左から、ディーコくん(岡崎南RC・タイ)  
グレイスさん(名古屋大須RC・タイ)  
ソニアさん(名古屋大須RC・フィンランド)  
カイルくん(刈谷RC・カナダ)  
マービンくん(名古屋名駅RC・ドイツ)



# 国際交流会

平成19年2月16日(金) 於:名古屋立常磐小学校

## 一緒に給食 楽しく交流

中川区小本の常磐小学校の六年生と、外国人留学生との交流会が十六日、同小学校で開かれた。名古屋大須ロータリークラブが主催。県内の各ロータリークラブが受け入れている留学生の中からドイツ、カナダ、タイ、フィンランドの高校生と大学院生の男女計五人が参加し、それぞれが四クラスに分かれて、各国の文化や習慣などについて楽しく語り合った。タイ人の大学院生グレイスさんと高橋生のディーコさんは、流ちょうな日本語で、タイの困りごとや主食について話したり、「ありがとう」など簡単なあいさつを児童に教えたりしていた。その後、留学生らは児童と一緒に給食を食べ、楽しい時を過ごした。(渡辺幸之)



児童に囲まれて笑顔で話す留学生のグレイスさん(中) 中川区の常磐小で

平成19年2月17日(土) 中日新聞掲載



3月1日(木)例会の御案内

Speak Out Day

米山記念奨学生

ジラルランチャイ・グンティターさん

送別会

ブリテン委員会

山口 正孝 神野 邦利 大原 敏正